

平成 28 年 10 月入学岡山大学大学院社会文化科学研究科博士前期課程【特別入試】・
平成 29 年 4 月入学岡山大学大学院社会文化科学研究科博士前期課程【8月募集】入学試験問題

講 座	経済理論・統計、比較経済、政策科学、 経営学、組織経済学、 地域公共政策コース
専門科目	ミクロ経済学

以下の問 1、問 2 の両方に解答しなさい。なお、問 1 は解答用紙の第 1 ページと第 2 ページに解答し、問 2 は解答用紙の第 3 ページと第 4 ページに解答しなさい。

問 1 以下の各設問に解答しなさい。

ある財に対する市場での売り手の供給関数が、

$$p = 100 + 0.8q$$

であり、買い手のその財に対する需要関数が

$$p = 500 - 0.8q$$

であったとする。ただし、 p は財の価格、 q は財の数量を表わす。

- (1) いま、市場で取り引きされるこの財に対して、売上げ量 1 単位当たり T 円 ($T > 0$) の固定的な税率での課税が「従量税」という形で売り手に賦課されることになったとする。このとき、市場均衡における新しい取引の数量 q^* はいくらになるか示しなさい。
- (2) 租税が売り手に対して賦課されるという形ではなく、買い手に対して賦課されるという形で同額の課税方式が採られた場合、そのときの市場での均衡取引数量は売り手に賦課された場合と比べてどのようになるか示しなさい。
- (3) 売り手への従量税が $T = 10$ の場合、政府の租税徴収額はいくらになるか求めなさい。
- (4) 売り手への従量税 $T = 10$ が課せられた場合の供給者についての生産者余剰の減少と需要者についての消費者余剰の減少の合計値と、(3) で求めた政府の集計的な租税収入額との間に差が生じるが、これは何を意味しているのか述べなさい。

問2 以下の各設問に解答しなさい。

ある財の市場の需要関数が

$$Q = 20 - P$$

であるとする。ただし、 Q は市場の需要量、 P は価格とする。この市場には n 個の企業が存在し、クールノー競争をしているとする。各企業の費用関数は同一で、

$$c = q^2 + 2$$

とする。ただし、 q は企業の生産量、 c は費用である。

(1) 市場に $n = 2$ 個の企業がいる場合、各企業の生産量と利潤とこの市場での価格を求めなさい。

(2) 市場に n 個の企業がいる場合、各企業の生産量と利潤とこの市場での価格を求めなさい。

(3) この市場への参入が自由で、参入する企業がすべて同一の費用関数

$$c = q^2 + 2$$

をもつとする。ただし、 q は企業の生産量、 c は費用である。どれだけの企業がこの市場に存在するか求めなさい。

以上